大洗応援隊！
～カフェから始まる∞の可能性～

ボランティア

地域交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科３年　細萱　真希

連携先

大洗町議会、髭釜商店街、大洗町役場まちづくり推進課、大洗町商工会、京都大学防災研究所

顧問教員

伊藤　哲司（人文学部・教授）

参加者

小野寺　藍　（教育学研究科１年）
柴田　裕輝　（理工学研究科１年）
上野嘉那子　（人文学部４年）
沢村　浩平　（理学部４年）
比屋根利紀　（人文学部４年）
加藤　成美　（人文学部３年）
武田　佑穂　（人文学部３年）
細萱　真希　（人文学部３年）
森　　彩織　（教育学部３年）
横田　晃一　（工学部３年）
雨澤　真櫻　（理学部２年）
小沼　里沙　（理学部２年）
星野　春奈　（理学部２年）
松田　健佑　（人文学部２年）
鈴木　菜々　（農学部１年）
廣川　和馬　（工学部１年）

プロジェクトの概要

＜プロジェクトの背景＞

「大洗応援隊！」とは、東日本大震災を受け、大洗町の復興支援を行うことを目的として2011年５月に創設された社会的ネットワーク組織である。大洗町での活動に関心を抱いて集まった学生や社会人によって構成されており、Face bookのグループ機能を利用して情報の共有を行っている。現在は茨城大学の学生が中心となって活動している。2012年９月から地域の交流・憩いの場、情報提供の場となることを目指して髭釜商店街の空き店舗を活用した「ほげほげカフェ」を運営している。『ほげほげ』とは大洗の方言で「心ゆくまでたっぷりと」という意味である。

大洗町では、2012年12月より大洗町を舞台にしたアニメの放送が始まって以来、商工会を中心に観光客の集客を目指した様々な取り組みが行われてきた。「ほげほげカフェ」においても、町の取り組みと連動し、翌年より観光客を主な対象とした活動を展開してきた。

2014年度の活動では磯節コンサートや水戸生涯学習センターとの共同企画など、住民を主体としたイベントも合わせて開催し、その中でこれらの取り組みに関心をもつ住民も多いことが分かった。また、茨城大学との地域連携で３年後に「大洗まちづくり大学」（仮称）を設立することが構想されており、今後さらに大洗町役場、住民、学生の交流および学びが活性化していくことに期待が高まっている。

＜プロジェクトの内容・目的＞

●目的

髭釜商店街をはじめ大洗町の様々な団体と連携し、大洗町の賑わいの継続、更なる発展のために、防災の町づくりや地域住民と観光客のネットワーク形成など多角的な視点から地域振興に携わること。

●内容

今年度は去年度と同じくカフェ運営、イベント開催、情報発信の３つに力を入れて活動した。今年度は新たに、展示スペースの設置とほげほげマップ改定を実施した。また他の活動として商店街のイベント補助と地域企業との連携も行った。

プロジェクトの成果報告

〈今年度の成果〉

●カフェ運営

大洗町にある髭釜商店街の空き店舗を活用した「ほげほげカフェ」を隔週土曜日と大洗のイベント時に合わせて運営した。季節やイベントに合わせ特別メニューを提供し、お客さんに「来るたびに毎回違う楽しみがある。ここは進化するカフェだね。」とのお言葉を頂いた。さらに「作品を作る機会はあるが展示する場がない」という住民の声から、カフェに展示スペースを設け、住民の芸術活動披露の場を作るとともにカフェに足を運ぶきっかけを作った。今年もカフェを継続的に運営することでお客さんが安心して立ち寄れる場を提供できた。

カフェ内の展示スペース

カフェの様子

●イベント開催

８月にほげほげカフェにて、自分が震災にあった時、どう行動するかを考えるシュミレーションゲーム「防災ゲームクロスロード」講座を行った。地域住民に震災当時の大洗の様子を話してもらうことにより防災に対する意識を新たにした。10月には観光客からの持ち込み企画である、参加型の音楽祭「ほげFes」を昨年に引き続き今年も継続して行った。

防災ゲームの様子

●情報発信

今年度は、2013年に作製した「大洗ほげほげマップ」の改訂に力を入れた。「大洗ほげほげマップ」は、大洗町の４商店街96店舗の営業時間や定休日、一言紹介文を載せている地図である。作製から２年経ったため、改めて各店舗を回り、お店の方から変更点を伺った。商店街のイベント時に配布したところ、マップを見ながら商店街を歩く人が増え、マップを効果的に使用してもらえたと感じる。

＜外部からの評価＞

大洗町議会の議員の方から「東日本大震災以降、大洗町のために活動し町を盛り上げてくれている。特に商店街のイベントを通して地域の活性化の一助となっており、これからも町づくりの同志として頑張ってほしい」との声をいただいた。このように応援隊の活動の継続を望む声を多数いただいており、町づくりボランティア団体としてこの上ない幸福だと感じる。「10年先も続くカフェ」を目指し、これからも町の活性化に尽力していきたい。

＜今後の課題と展望＞

今年度は特に継続に力を入れた結果、知名度が徐々に上がりカフェに毎回来てくださるお客さんも増え、応援隊の活動に興味・関心を持ってくださる方もでてきた。外部と協力することで人手不足も解消され、活動の幅も広がるはずである。どんな団体とどのように協力して活動していくかが今後の活動の鍵である。

学生会議の様子